

# 20万分の1日本シームレス地質図の床張り展示

齋藤 眞<sup>1)</sup>・岸本清行<sup>1)</sup>・角井朝昭<sup>2)</sup>・坂寄裕代<sup>1)</sup>・酒井キミ子<sup>1)</sup>

今回の地質情報展2014かごしまで中心となった展示物は、20万分の1日本シームレス地質図を使った大阪以西の地質図（海底地形付き）の床張りでした（写真1）。地質図を床張りにするのは、地質図を地面に置くことによって、地質図とそれの示す「地面」の方向が一致して、見る人にとって「地面のこと」と認識しやすくなることを期待するためです。

この床張り展示は、およそ10万分の1縮尺で描いています。元となった地質図の精度が20万分の1縮尺で、机の上で目から図面までの距離が数10cmで見えることを想定していることから、地質図の上に立って、目から図面までの距離が倍以上になることを考慮して、倍の縮尺にしてあります。

陸上部分の地質図は20万分の1日本シームレス地質図のベクタデータを使い、東京カートグラフィック株式会社の地図「TCG500K日本版」を下敷きにして、ランベルト正角円錐図法(中央経線135°E, 標準緯線34°N/38°N), 標準緯線上で縮尺10万分の1で作成しました。海域の地形は、JTOPO30 ((財)日本水路協会 海洋情報研究センター), J-EGG500 (海上保安庁海洋情報部/日本海洋データセンター) 及びJapan250m.grd (岸本, 2000) を再編集して、本地質図の図法縮尺に合わせました。日本以外の地形情報はNASAのSRTM 3secメッシュを用いました。

そして鹿児島が中心になるよう、大阪から西側(竹島, 尖閣諸島も含む)のデータを作り、幅約1m総延長135m弱をプリントアウトし、ラミネートをかけて、会場で貼り合わせました。地質図上には実際の岩石をさわってもら

ために鹿児島県によく見られる岩石(例えば入戸火砕流堆積物の溶結凝灰岩)をいくつか展示し、実際の分布地域とカラーマスキングテープで結びました(写真1)。展示した標本は、地質標本館の登録標本・地質調査総合センター職員の研究中試料のほか、鹿児島県立博物館および鹿児島大学総合研究博物館から提供して頂きました。

当日来場者の方々には、受付を過ぎてすぐの会場内に張られた床全面の地質図の広がり感動して頂けたとともに、日本の現在の姿、これまでのでき方などの話を熱心に聞いて頂きました。またこの地質図をWebで見られるためのアドレスを記したカードもお渡ししたので、きっとアクセスして頂けたと思います。

今回の展示はすべて自前で作りましたが、このような床張り地質図(陸上部分)については、特別展などで使うための一時的なもの何年か展示できる恒久的なものを作成することのできる業者をご紹介することもできますので、ぜひお使い頂ければと思います。なお、この床張り地質図は宮崎県総合博物館で2014年12月15日~2015年2月22日まで展示されています。

## 文 献

岸本清行(2000)海陸を合わせた日本周辺のメッシュ地形データの作成:Japan250m.grd.産総研地質調査総合センター研究資料集, no. 353.

SAITO Makoto, KISHIMOTO Kiyoyuki, SUMII Tomoaki, SAKAYORI Yasuyo and SAKAI Kimiko (2015) Floor display of Seamless Digital Geological Map of Japan (1:200,000).

(受付:2014年11月11日)



写真1 会場風景(会場2F席から撮影)。地質図の床張り展示の様子、鹿児島県下の代表的な岩石標本を地質図と対応させて展示しました。

1) 産総研 地質情報研究部門  
2) 産総研 地質標本館

キーワード: 地質図, 西日本, 展示, 床張り